

第1回 地域学校協働活動推進員・地域連携担当教職員研修 実施レポート

期日：令和5年6月21日（水） 参加者：78名（うち市町村・県立学校から49名）

地域学校協働活動推進員や地域連携担当教職員等、地域と学校をつなぐ関係者を対象に、「実践演習！熟議をファシリテート！」をテーマに研修を行いました。参加者は熟議体験を通じて、ファシリテートする技術や心得を学び、熟議の必要性や参加者による実践の必要性を認識していました。



【前半 講義】

当センターの主査（兼）社会教育主事 **皆川 雅仁** が「熟議とは～参加型学習における位置づけとその重要性～」と題し、熟議について説明しました。最初に「支援」「連携」「協働」の違いを説明した上で、対等な立場で各々の役割を各々のタイミングで果たし、目的を目指す「協働」こそが今求められることであり、地域学校協働活動とは地域と学校が協働＝横並びで行うことであることを確認しました。そして、この地域学校協働活動を進めていく上で、目標共有や課題解決を目指す話し合いの手法である「熟議」を行うと、参加者間の自由闊達な議論が保証されることを説明しました。

- 1 何のために話し合うのか明確にする
- 2 話しやすい雰囲気を作る
- 3 新しい気付きやアイデアを生み出す
- 4 目標を共有する
- 5 時間を適切に管理する

【後半 演習・講習】

参加者は熟議体験後、講義「ファシリテーターに必要なスキルとは」を受講しました。

講師は当センターの副主幹（兼）学習事業班長 **柏木 睦** です。冒頭、ファシリテーターの5つの役割をおさえました。そして、その5つについて自らがモデルとなって熟議を進めました。参加者が「秋田県の子もたちにどのように育ててほしいか」というテーマについて、自分に何ができるのかを考えられるように、「本県学校教育が目指すもの」「家族との会話・わが子との会話時間」のスライドを提示して、参加者のレディネスを揃えることの重要性を示しました。



参加者はアイスブレイクの後、ラウンド毎に、席替えをしながらテーマに沿って話し合いました。付箋に書いた自分の考えを示して話したり、付箋を仲間分けしたりと活発に話し合う姿が見られました。左の画像は、参加者がそれまでの話し合いを通して、印象に残っているキーワードを仲間分けしたもので、「自己の確立」「前向きな姿勢」「秋田愛」「コミュニケーション」が共通項として浮かび上がりました。



熟議体験後は講師から、示したスライドの意味や、

進行する上での心得や手順等の説明がありました。中でも、ファシリテーターを務めるに当たり特に意識してほしい点として、レディネスを揃えるときにどのような資料を提示するのかに注力すること、熟議は参加者に自分事として意識してもらうことが大切なのであって、書かせること・強引にまとめようとするのはさせないことを強調しました。最後に、熟議のポイントを伝えまとめとしました。熟議体験を通じての講義は、実感を伴った理解に結び付いたようで、参加者全員から「大いに満足・満足」の高評価をいただきました。

【参加者アンケートより】（抜粋）

- ・最初と最後とでは、熟議に対する考え方が180°変わった。
- ・様々な立場の方々と意見交換ができ、とても参考になった。
- ・熟議の理解を深めただけでなく、「協働」についての理解も深めることができた。熟議の効果についても体験することができ、テーマや目標を自分事のようにとらえることができた。